

時代が求める印刷技術と職場づくりの追求

河北印刷株式会社の歴史は、明治39年、現社長の祖父・鶴之助氏が始めた活版印刷業にさかのぼります。平成2年に社長就任した河北社長は、IT社会の到来に備えるため、積極的な設備投資や専門人材の採用、デジタル化を推進し、短納期化や生産性向上を実現。その結果、編集から印刷製本、配送、データ管理までの一貫生産体制を整え、新旧の印刷技術を組み合わせ、付加価値の高い提案力や、自治体史や手帳、上製本など信頼が求められる高度な製本技術を培われてきました。

京都府からワークライフバランス推進企業として認証されるなど、従業員が働きやすい職場作りも積極的に推進されています。子どもの看護休暇や育児短時間勤務制度などの休暇制度を充実させ、家庭との両立を支援。納涼祭や新年会など数多くの年間行事が、チームワークを育み、育児や介護でお互いが休暇を取りやすい会社風土を作っています。

「さらなるデジタル化や顧客ニーズの変化に対応できるよう、今後必要な投資を積極的に行う」と河北社長。近年では、伝統産業系企業とのコラボ商品の開発にも積極的に取り組まれています。



印刷・製本工程をご紹介いただいた河北社長(左)と高井専務(右)

河北印刷株式会社

代表者／代表取締役社長 河北 喜十良
住所／南区唐橋門脇町28
TEL／075-691-5121
事業内容／印刷、製本

従業員の体と心の健康をサポート



ショールームをご案内いただいた岡執行役員(左)と田淵工場長(中央)

新日本理化株式会社は、今回訪問した京都工場が創業の地。創業当時は、宇治川の水を電気分解し、酸素と水素を生成し、軍需・医療需要に応じて酸素を提供しておられました。その後は、水素を利用する技術の礎として、現在の主力事業であるオレオ事業や化成事業に取り組んでこられました。同社の製品は、シャンプーや洗剤、電線の被覆、自動車の塗料、プラスチック容器など、さまざまな日用品に新たな機能性を付加する原料となっています。

経営理念に「安全な職場環境」や「働きがいのある職場」を掲げ、「従業員は財産です」と言う執行役員・生産本部長の岡氏。京都府の「きょうと健康づくり実践企業認証制度」の優秀賞を受賞されるなど、健康経営を積極的に推進されています。生活習慣病検診や人間ドックの受診促進を充実されているほか、特にメンタルヘルスの対応は先進的で、早くからすべての社員に対して、定期的に産業力ウンセラーによる面談を実施。メンタルヘルス疾患の早期発見や発病者の復職のサポート、離職率の低下にもつながられています。

新日本理化株式会社京都工場

代表者／代表取締役社長 藤本 万太郎
住所／伏見区葭島矢倉町13
TEL／075-611-2201
事業内容／オレオ製品・化成品・機能製品(製)(販)

会頭のひとこと

今回訪問した2社は、会社と社員の関係性がとても良い。法定基準よりも踏み込んだ健康経営を実践し、社員が働くことに対する安心感やチームワークを醸成している。健康経営が知恵の源となり、顧客への対応力やものづくりに生かされている。